

言葉や文化の違いを多くの人に知ってほしい

国際交流員

オストワルド・ロバートさん (31)

東ドイツのオーデル川付近にあるフランクフルト生まれ。人口約5千人の町ゼーロウで18歳まで過ごした後、ベルリン自由大学や東京外国語大学で、言語を含む日本文化について学んだ

「出会う人たちが皆優しく、温かいです。そしてドイツと比べると湿度が高くとても暑く感じますね」。

小林市の印象を笑顔で話すのは8月7日に国際交流員に着任したオストワルド・ロバートさん。

多文化共生イベントの企画や市内に住む外国人への情報発信などの業務を、前任のアントニア・シュルトさんから引き継ぎました。

幼少期から日本のアニメやゲームに触れるなど、日本に興味があったと話すロバートさん。国際交流員になったきっかけは、7年前の日本旅行でした。

「アニメで見た日本と現実では全然違う。人がとても多いのに整理されている道路や電車にもびっくり」。驚きの連続だった初来日で日本への興味は深まり、日本について勉強することを決意。その後、約6年間

ベルリン自由大学や東京外国語大学で日本語や日本文化について勉強しました。

小林市に行くことが決まり、「調べてみても、農業や畜産が盛んな地域」ということしか分からず不安もあった」と振り返ります。

着任から約1カ月、生活に慣れてきたロバートさんの最近の楽しみは、大好きな牛肉を食べること。

「ここで食べるお肉はとてもおいしい。幸せです」。

地域を知ること、国際交流員としての活動も少しずつ進み始めています。

「ドイツを代表し、小林市の国際化を進めることが私の役目。クリスマスマーケットやオクトーバーフェストなどのドイツを代表する祭りの企画も行いたい」。

世界と小林市の架け橋を目指して、ロバートさんの活動が、いよいよ始まります。

料理を作ることや、たくさん食べることが趣味だと話すロバートさんが作った、※シュニッツェルとほうれん草の Pasta

※仔牛のヒレ肉や赤身肉を叩いて薄く伸ばし、衣をつけて焼いたもの



身長180cmのロバートさん。「背が高くて初めて見た人は怖く感じるかもしれませんが、見かけたら優しく声をかけてください」と笑顔で話す



小林人

こばやしびと
Vol.123